

内灘海岸でビーチベースボール

全国初大会に81チーム

第1回ビーチベースボール北陸大会は、内灘（北國新聞社、内灘町、日本ビーチベースボール連盟、メディア・ネットワーク主催）は4日、「恋人の聖地」認定を受けた内灘海岸の特設グラウンドで開幕し、石川県外16チームを含む81チームが心地よい浜風の中、砂と汗にまみれてビーチを駆けめぐった。

ビーチベースボールは、

砂浜で行う7人制の大会開催は全国で初めて。短めの金属製バットでスポンジ製のティールボールを打ち、グロープの使用は自由となる。初日は3〜4チームの21ブロックに分かれて予選リーグが行われ、各チームは豪快に砂煙を舞い上げ、力と技を競った。選手からは「海に向かって打つ



始球式で力投する内灘キャンペーンガールの3人と八十出内灘町長 = 4日午前8時25分

砂の上のプレーボール



のは気分爽快」「砂浜の感触と浜風が気持ちいい」と声が上がっている。それぞれの開放的な雰囲気を楽しんだ。開会式では、八十出

砂をけて白熱したプレーを展開する出場チーム = 4日午前9時、内灘海岸

浜風受け「気分爽快」

泰成内灘町長、温井伸番、SBCの中谷匠キ者トーナメントが行われ、初代王者が決まる。北國新聞社常務、松原ヤブテン(26)が金沢市大会は県内灘町教委、繁日本ビーチベースボール連盟理事長が順に、IIが選手宣誓し、内灘大会は同町商工会、テレビ金

あいつつした。松原理事長は、内灘での全国大会開催に意欲を示した。チームナンバー1メント、3・4位の敗

3人と八十出町長が始球式に臨んだ。5日はブロック1・2位による決勝トーナメントが後援した。

沢、北陸放送、エフエム石川、ラジオかなざわ・こまつ・ななお、金沢ケーブルテレビネットが後援した。